

研究代表者 所属・職：福祉経営学部・助教

氏 名：水野 節子

研究課題名：学習支援における支援者の意識と考え方

研究の概要

貧困の連鎖を断ち切るために行われている厚生労働省管轄の学習支援事業は、全国の福祉事務所設置自治体が主体となって体制の整備を進め、各地で NPO や一般社団法人、塾経営企業など、多彩な組織が運営を受託している。教育方法やカリキュラムは一律ではないため、各現場で行われていることは多様である。また、現場を担う学習支援者は、大学生などの若手から、塾講師、主婦、元教員などのシニア層まで幅広く、その意識と考え方も多岐にわたる。

本研究は、そうした一見つかみどころのない現在の学習支援を捉えるために、担い手である学習支援者に焦点を当て、学習支援に対する意識と考え方の傾向を明らかにすることをめざす。具体的には、生活困窮家庭の児童を対象に愛知県で行われている学習支援事業の学習支援者を対象に、①子どもへのかかわり方や学習支援に対する意識と考え方、さらには本人の社会的スキルについての Web 上のアンケート調査を実施した。次に、その中の一団体の学習支援者 8 名に、②「学習」および「支援」に対する考え方を問う半構造化インタビューを行った。

研究の進捗状況として、①②の調査は終えたものの、まだ分析・考察はできていない。しかしながら、調査により、学習支援者は学習支援を通じた子どもとの対話を重視しており、子どもが学習支援者との対話を通じて変化するだけでなく、学習支援者も子どもとの対話的なかかわりを通じて自己成長を実感する割合が高いことは明らかであった。また、半構造化インタビューにより得られた学習支援者の発言データは、より良い学習支援の方法を示唆しているようにも感じられた。

今後はこれらのデータをもとに、学習支援者の

意識と考え方を明らかにし、彼らを活かす学習支援法を検討する。

達成状況・成果内容

本研究は量的・質的調査を組み入れた研究として計画し、必要な調査については、2020 年度内に実施することができた。

量的調査については、名古屋市内の学習支援現場約 150 ヶ所を運営する 28 事業者、および大府市、高浜市、半田市の学習支援事業者に呼びかけ、実際に学習支援現場で子どもの学習支援に当たる支援者を対象とした Web 上のアンケートフォームへの回答を促し、合計 171 の回答を得ることができた。そのプロセスを通じて、名古屋市の学習支援事業をコーディネートするコンソーシアム団体、および名古屋市内の学校におけるキャリア教育を推進する団体との接点生まれ、多様な学習支援事業者のあり方や学校とのかかわり、事業者と学校との連携の実際を知ることができた。

量的調査の具体的な内容は、学習支援現場における学習支援において、学習支援者はどのような意識、考え方のもとで、子どもに対してどのようなかかわり方、向き合い方をしているかを探るとともに、学習支援者自身の社会的スキルについても計測可能な質問群として構成した。この質問群を構成する上で、研究協力を得ていた学習支援事業者が、団体内の学習支援者に示している行動指針を入手することができた。この行動指針は子どもと学習支援者の関係構築を促進し、子どもの主体性を育むための指針となる知見であったため、質問群の一部にはこの行動指針の内容を疑問形にした質問も組み入れた。また、社会的スキルの調査には菊地（1993）の社会的スキル尺度 KiSS-18 を活用した。こうした調査により得られたデータ

は、行動指針と関連する部分については因子分析、回答間の影響を探る必要がある部分については重回帰分析を用いて分析し、考察していく予定である。

質的調査については、ある団体の学習支援者を役員1名・職員1名・準職員2名・アルバイト2名・ボランティア2名と職位横断的に抽出し、「1) 学習支援を行っているのはなぜか。2) 学習とはどのようなことか。3) 学習に必要な支援とは何か。」という3点の質問を基軸にした半構造化インタビューを実施した。

このインタビュー調査を通じて、学習支援における対話は子どもにとって他者との関係構築の一歩であり、それは子どもが自らの世界を広げ、自ら行動する一歩に他ならないことが強く印象に残った。同時に、それを支援する学習支援者も子どもの変化を促すために、それまでにはなかった視点やかかわり方を身につけ、成長していく。また、職位は経験年数に比例することもあり、準職員以上の学習支援者、アルバイト、ボランティアと、学習支援に対する捉え方・考え方は3層に分かれた次元で語られた印象がある。

こうしたダイナミクスに富んだ豊かなインタビューデータの分析には、M-GTA やカテゴリー分析、ディスコース分析など多様な方法が考えられる。そのため、今後は最適な分析方法を検討しつつ、子どもにとってより良く、学習支援者にとっても価値ある学習支援法を見出すための一助となる仮説の生成をめざして、分析・考察に取り組む予定である。